

166

2020. 2. 16

長崎郵趣



【テーマティク日本切手】

は九つの動物に似る。前篇(章)の七手目 来江日本美術



【テーマティク日本選手】

聖人とともに治理 國體の切手

「風氣」は、古代中国では聖人とともに尊られるといい、首を屈め顔を下すといふ、静かにまづく、穎慧(アギツ)の本に在み、前後(さきとしろ)を並べ、皆の食を食い、正直の若者も然らず、妙言を喰く、馬鹿をして尋ねられたのである。豪傑には忠孝二字を以て其の名を表し、元帝(成帝)の使者がこれもさういふ。古代の風氣は、當時の風俗を定めさせざる者に之の風度とともに風流(ふりゅう)を遺すことをいふ。風氣は、魏晉の玄言風氣、大丈夫の風氣等がある。



【テーマティック日本切手】

とともに四葉(福島)の二つ 曲線の切手

では、隨風の姿を振る前方はオヌの御前、後方は姫、肩はハビ、尾は魚、巻のような頭にはツバメ、くらぼうはニワトリに似ているといつてゐる。日本の風景文選ではたゞて題は「風」であるが、日本書紀「風の御事」の内に風雲についての御事がある。



瑞鳥

瑞獸の切手
(改)

宮崎治男

瑞鳥・瑞獸の切手 (改)

宮崎 治男

古代中国では、靈妙なおめでたい動物（瑞獸）を「四靈」といった（後漢、唐時代の書「礼記」）。すなわち、龍（应龍）、鳳（鳳凰）、麟（麒麟）、龜（靈龜）である（いずれも想像の動物）。これが日本に伝来、鶴などが加わりおめでたい動物として美術工芸品や生活の中に溶け込んでいった。

切手デザインには、その姿の優美さ、現生の鳥である「鶴切手」が最も多い（日本最初の記念切手「明治銀婚」ほか5種）。次は龍切手で、最も勢いのある瑞獸として、日本最初の切手・龍文切手をはじめとしてめでたいテーマによく取り上げられている（48種）。鳳凰は、皇室関連の記念切手や神輿の飾りに描かれている（26種）。麒麟の切手は、皇室関係、文化財などわずか6種にすぎない。龜関連の切手は、

鶴切手に比し非常に少なく9種（うち、昔ばなし4種）である。

龍は平素、水底にすみ、雲を起こし雨を呼ぶ、時至れば雷鳴をとどろかせて天に昇る。鳳凰は雌雄（凰と鳳）睦まじく、五色の羽をもち妙音でなく。麒麟（雄が麒、雌が麟）は体は鹿、脚は馬、尻尾は牛に似る、決して他を傷つけないという仁獸。龜は千年を超えた靈龜で、吉凶を判じ、甲羅に仙人の住む蓬萊山を乗せて動くといふ。

※長崎郵趣154号（2019年2月号）で同名の記事を投稿したが、昨年の改元関連の切手が数多く発行されたので、いくつかの切手を入れて、新しくレイアウトしたものを掲載した。
(編集部注)

【テーマティック日本切手】

雄が鳳、雌が凰といふ 鳳凰の切手



宇宙平和院鳳凰空郵便り (普通切手 1972.7.6)



雄が鳳、雌が凰といふ 鳳凰の切手



宇宙平和院鳳凰空郵便り (普通切手 1972.7.6)



雄が鳳、雌が凰といふ 鳳凰の切手



雄が鳳、雌が凰といふ 鳳凰の切手



雄が鳳、雌が凰といふ 鳳凰の切手

京都市時代祭の神輿 (ふらさと 2003)



小堀駒音画「東京御臺會」 (普通切手 1968)



京都市時代祭の神輿 (ふらさと 2003)

小堀駒音画「東京御臺會」 (普通切手 1968)

今「鳳凰(ほりこ)、鳳凰(ほりこ)」：めでたい象徴とされる鳳凰を豫めに飾った天子の乗り物、神輿などにも取り付けられていら。

【テーマティック日本切手】

雄は麒、雌は麟といふ 麒麟の切手

麒麟は、体は鹿に頭に1本の角があり、蹄はない。足は馬、尻尾は牛の形をして、仁慈の心ある王や聖人が出る時しか一日に触れないという瑞獸。雄を麒、雌を麟という。雄の首の角の先は曲がり、雌は直角がないところから仁慈といれる。鳴き声は朝日の音節に合っており、生きている草や木を踏まないといい。麒麟を捕ぐ者は死んで、董朮の切手は「明に見太子乳」(1832)と題す。



★ 生丸額、麒麟と菊花 (シートの背景に馬鹿と鳴鶴 (昭和21年) 1952)



東野洋子洋服帳「麒麟」(昭和21年) 1952、高御座御用帳「麒麟」(昭和21年) 200、江戸城本丸等障壁塗装塗板 (昭和40年) 1965



